②学習課題：四角形を2つの三角形とみて，合同な三角形のかき方を使って合同な四角形をかこう。

②見通し：三角形は，3つの辺や2つの辺と間の角を測ってかいた。

→四角形を三角形に分けて考えれば，三角形のかき方が使えそうだ。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「それぞれ，どの2つの三角形に

分けて考えたのかな？」

→「１はABCとDACの2つに，２はDBCとABDの2つに分けて考えたね。」

「いろいろな三角形のかき方を使っているよ。」

A

D

CA

B

３

CA

B

CA

A

D

D

２

A

B

１

④共同追究後半（思考を深める）

「３のかき方は，三角形のかき方を使っていな

いんじゃないかな？」

→「対角線を引けば，ABCとDACの2つの

　　三角形の，2つの辺と間の角を測ったことが分かるね。」

交点に集まった角は余分だから，720°

から一回転の角360°をひいて360°に。」

③個人追究：三角形に分けて，合同な四角形のかき方を説明する。

本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・3つの辺や，2つの辺と間の角などを等しくとって，合同な三角形をかく方法を理解している。

○既習内容とつなぐ見方・考え方

・長方形や平行四辺形が、対角線で2つの三角形に分けられる。

A

B

E

D

C

A

D

CA

B

≪学習問題≫

四角形ABCDと合同な四角形をかくには，

どうしたらよいだろうか。

教材研究ノート№5-B-3

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・四角形を三角形に分けて，三角形のかき方を使えば，合同な四角形をかくことができた。四角形は三角形に分ければよい。

・三角形のかき方を使っていないように見えるかき方も，やっぱり三角形のかき方を使っている。

⑥定着･活用問題

(1)学習問題と違う形の四角形を，学習問題の

ときに自分が使わなかったかき方でかこう。

(2)五角形ABCDEと合同な五角形をかこう。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・四角形をどの2つの三角形に分けたか，どの三角形のかき方を使ったか着目させ，基本図形として三角形を認識させることが，四角形の角の和の求め方にもつながることを意識して指導したい。

・共同追究後半では，2つの三角形に分けるのに，なぜ6箇所でなく5箇所測ればかけるのかを問い，2つの三角形が1つの辺を共有していることに気付かせる展開も考えられる。